

かずさの博物誌

シュレーゲルアオガエル

～きれいな緑色の蛙～

文・写真／成田篤彦
2016.7.20

毎年、四月下旬には水が谷津田に張られます。

するとそれを待っていたように「カラ、カラ、カラ、カラ、カラ、カラ」と澄んだ軽快な鳴き声が、あちこちの水田から響き渡り、大合唱になります。

これはシュレーゲルアオガエルのオスの鳴き声です。しかし、彼らの姿は見えません。あぜ道の土の中で鳴いているからです。

さて、約十年前の大雨の翌日、水を引いた谷津田の土手のそばにこのカエルが四匹、かたまっていました。三匹が緑色です。

ちなみに、芥川龍之介の「青蛙おのれもペンキぬりたてか」との名句があります。

この句のとおり、彼らの体色はペンキが乾いていない時の眼の覚めるような緑色です。しかし、一匹は泥土と同じ暗赤褐色です。

彼らは周りの環境に合わせて淡い黄緑にも色を変えます。中央に一回り大きいのが一匹います。これがメ

▲シュレーゲルアオガエルの生息地
地二〇一五年四月九日 木更津市



▲オスのメスの奪い合い=2007年4月22日 木更津市

草などで、しばしば見られるようになります。幼体は眼がくりくりして、体をひねる動作などがとても可愛らしいものです。

スです。そのうちオスが一匹、メスの背に跳び乗り、メスのわきの下を両腕で強く抱き締めました。他のオスがそのオスとメスの間にもぐり込もうとしますが、メスを抱いたオスは「絶対に放さないぞ!」と寄って来る外のオスたちを後脚で蹴とばします。

メスはオスを背負ったまま、泳いで、土手の斜面にたどり着き、登り始めました。

その後、後ろ足で土を押しつけて穴を掘り、オスと共にその中に埋まっています。頭だけを出してしま

時にメスは眼を半開きにし、うつとりとしたしぐさをします。産卵を開始し、お腹が軽くなり、すつきりし始めたのか?と思いました。

産卵は通常夜行われ、真昼に産卵行動が見られるのはめったにありません。

このカエルは真冬でも暖かい日には一〜二匹の鳴き声が聞かれますが、二〜五月が繁殖期で、卵かいは豆腐のような白い塊です。その中に黄色の卵が入っています。田植えの時に、蛙が削られると卵かいが流れ出て、水面をよく漂っています。

卵がふ化し、オタマジャクシになり、変態して、六〜七月には陸に上がります。幼体が水田近くの林の下



▲シュレーゲルのオスとメス=2007年4月22日 木更津市

成体になり近くの畑地や畦の土の中で冬眠します。緑色のカエルはよく知られたアマガエルやモリアオガエルがいます。このカエルはその陰に隠れてあまり知られていませんが、上総では林と水田が一帯にある場所ではたいがい生息しています。最も繁殖している

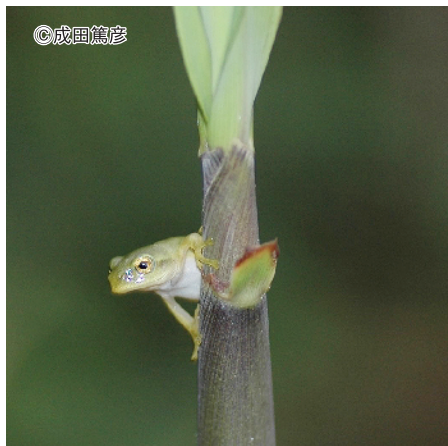
るカエルの一つです。ペットのように飼育する方もいます。

身近に普通にいるカエルですから一度、近くの水田で観察してみたいかがでしょうか?



▲畔に埋まるオスとメス =2007年4月22日 木更津市

▲シュレーゲルアオガエル幼体 =2006年6月22日 木更津市



memo
シュレーゲルアオガエル
アオガエル科

日本固有種。モリアオガエルの近縁種。体長オス三十〜四十三ミリメートル、メス四十〜五十五ミリメートル。本州、四国、九州などにすむ。シュレーゲルとはシールポルトの日本の採集品を研究したオランダの動物学者の名。